

校舎の屋根瓦が日の光を受けて熱を蓄えて、頂いていた雪をどんどん溶かし、屋根の隅に吹き寄せられて残っていた雪から雨だれのようにしずくが滴っている。

この1日に卒業式が行われ、3年生のいない校舎は、やけにがらんとしている。式辞の中で卒業生にはなむけに贈った一文を、1・2年生の諸君に贈る。

飛べ 翼を獲得せし者たちよ

おそらくは生涯に於いて最もまぶしい光を放つであろう

この在学の年月に

忘れがたく、また、忘れてはならない出来事があった

2年前の春まだ浅き3月11日

山が震え、海が膨れあがり、この東北で多くの命をのみ込んだ

家は流され、街は廃墟と化し、人々の生活の基盤を根こそぎ奪い去った



人々は泣き、震え、人々は耐え、そして行動した

避難所になった学校で、中学生たちがかいがいしく働き

高校生が、笑顔で老人に語りかけた

彼等もまた、家を失い家族の安否がわからないままだったのだ

何があっても負けないで、何度でも立ち上がる命の粘り強さ

苦しみの只中であってなお、人のために行動する精神の気高さ

本高生もまた、生徒会が動き、一人一人が行動を起こした

若い命には受け止めがたい不条理と悲惨

なぜあの場所に なぜ津波が なぜ原子力発電所が

応えられることのない幾百もの問い

日本中の祈りが、世界中の願いが、被災地に送られ

届けられる

私たちにできることは、被災された人々の苦しみを思い

その悲しみが少しでも癒えることを 祈ることだけだ

自分の非力と無力を思い知らされる

本高生よ しかし、飛べ 翼を広げて、悲しみを抱いて飛べ

命を失った人々の、生きたかった明日を生きるのは

諸君の責務であるからだ

そして幾百日が過ぎ、学舎が110年の歴史を刻む年に  
最上級として本校に学んだ  
この年、110年にわたり 先輩から後輩へ  
連綿と受け継がれてきた本校の魂の精髓に触れた

右文尚武 質実剛健 玲瓏同氣  
本高の持つDNAが自らの体内に熱く流れていることを知った

腕も折れよとオールを漕いだ春  
試合終了のサイレンを涙とともに聞いた夏  
競技場を一陣の風となって駆け抜けた秋  
暈に汗が飛び散った冬



後輩よ 私たちの闘う姿を見よ  
どんなに辛く困難であったとしても  
もうだめだと諦めた瞬間にゲームは終わる  
だから打て だから走れ だから攻めよ  
闘うとはこういうことだ  
勝つと決めた方が勝つのだ



勝利のために重ねた精進がある  
右文尚武の実現のために握りしめた鉛筆がある

どこまでも勝利を信じて 戦い抜く精神の強靭さは  
諸君の翼に 血潮となって流れ込み  
力 漲り、翼はまさに羽ばたかんとす

110年の年に 本高の担うべき役割に思いをいたし  
翻って 自らの果たすべき使命に思い巡らせた  
何のために学ぶのか 生きることの意味は何か  
自分は何を為すべきか  
自らの使命を思うとき、その思惟の重りは  
深く根源へと降りていく

願いかなわず 失意に沈んだことがある  
周りの友が大きく見えて 我が身の卑小さと惰弱さに  
人知れず涙をぬぐった  
心は大海の小舟のように揺れ、目的地も  
そこへ至る方途もまた 見通せず  
意気阻喪し 無力感にさいなまれたときがある

その時 翼は力なく たたまれたまま  
再び羽ばたく力を持たないようにすら思われた

大きな壁を前にして うちひしがれているときに  
友の共感 恩師の励まし 父母の支えと 同窓の期待が  
温かき力となって体中を満たし  
幾度立ち上がらせてくれたことか

オーストリアの精神科医フランクは  
ナチス収容所での苛烈な絶望の日々を生き延びて  
その思惟は 人間存在の根源へとたどり着いた  
フランクは言った  
意味のない苦しみはない  
なぜこれほどに苦しむのかという問いではなく  
苦しみは  
自分に何を伝えようとしているのかと 問うがいい

自分のこの 困難に満ちた人生は何なのかという問いではなく  
この人生は 自分に何を望んでいるかを考えよと  
そこに於いて、どのような苦難も  
コペルニクスの転回を果たし  
諸君の人生に 苦しみは全く新しい相貌を見せる

本高の卒業生の中にも  
幾人も 困難を乗り越えてきた者たちがいることを知っている



ある生徒は体にハンディを負いながら、それをものともせず  
明るく部活に打ち込んだ  
ある生徒は、自らのハンディを  
同じ境遇の人の役に立たせるために 福祉関係へと進む  
また、ある生徒は、年老いた祖母の元で部活動に励み  
これまでに支えてくれた感謝と地元への恩返しのために  
消防士となる  
仕事を終えて 疲れた体にむち打って毎日桜坂をのぼった  
重い病を乗り越えた者がいる 不登校を克服した者がいる

彼らがどれほどの困難を、どれほどの勇気をもって  
乗り越えてきたか  
他の誰でもない、自分にしか引き受けることのできない  
一回性の経験として  
自らの困難と向き合い  
その困難を乗り越えて前に進むことを  
自らの役割として了解し  
ただ ひたすらに、ひたむきに取り組んできた

どのような困難も、他の誰でもない  
自分にしか経験することのできない苦難として  
捉えることができた時  
その時 学びの翼は力強く うち広げられ  
上昇の気流を捉えて舞い上がる



その高みから諸君の目に映るものは何か  
登り得た高みから目をこらせば  
諸君を待ちわび、諸君の力を渴望している人々が見えよう  
その人たちのそばへ 翼はためかせ  
全力で風を切り裂いて降り立つのだ



社会は 諸君の成長を待っている  
そのために学べ そのために鍛えよ  
それが本高生の果たすべき 崇高な使命である

空高く飛べ 翼を獲得せし者たちよ

(写真提供：由利写真館)